

| | | | |
|-----------|-----------------------------|-----|-------|
| 内容項目 | B 親切、思いやり | 主題名 | 親切な心で |
| 内容項目指導の観点 | 身近な人たちに温かい心で接し、親切にする心情を育てる。 | | |

①授業者の価値観 ※ねらいとする道徳的価値（道徳の内容）について、学習指導要領に基づき明確な考えをもつ。

授業者が考える

B 親切、思いやり

とは？※この1年間でこの学級の子どもたちに育てたいこと

身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにしたい。

②児童観 ※授業者の明確な価値観に基づくこれまでの指導と子どもの学び、よさや課題を明確にし、本時の方向性を示す。

各教科等、さまざまな場面でこの視点で **親切、思いやり** に関わる指導をする

| | |
|------------|--|
| 各教科で指導したこと | 国語の「はをへをつかおう」の学習では、は・を・へを使い文章を作る課題につまずいている子に親切に声をかけている児童を称賛した。 |
|------------|--|

その結果、児童は

| | |
|----|----------------------------------|
| よさ | 児童がお互いに声をかけ助け合うよさを感じられるようになってきた。 |
| 課題 | 声かけをしてもらってから行動する子が多い。 |

実態から求められること(ねらい)＝ここが授業の中心 育てたいのは、判断力、**心情**、意欲と態度

相手の気持ちを考えて思いやりのある行動を受けたときの嬉しさを感じられるようにしたい。

③教材観 ※授業者の明確な価値観、本時の方向性を基に、教材の活用の仕方を明らかに、教材は活用するもの

| | |
|-----------------------|---|
| 本時で扱う教材 | はしのうえのおおかみ |
| 実態から教材のどこを中心に考えさせるのか。 | 児童をおおかみに自我関与させて、親切にされたときの気持ちを考えさせるために、くまに親切にされたときの気持ちを考えさせる。 実態からどのように教材を活用するか。 本時は、 補充 深化 統合 をねらう。 |

④教材分析表 ※中心発問から前後の発問を考える

価値理解：人間としてよりよく生きる上で大切なことであることを理解すること。 **人間理解**：道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということ为前提として理解する。

| 中心発問 | 意図(他、人、 価 理解) |
|--------------------------------------|----------------------|
| くまの後ろ姿を見送った時、おおかみはどんなことを考えていたのでしょうか。 | 親切にされたときの気持ちを考えさせる。 |

| 発問 | 意図(他、 人 、 価 理解) | 発問 | 意図(他、 人 、 価 理解) |
|--|-------------------------------|---|-------------------------------|
| きつねやたぬきに「こらこら、もどれもどれ」と言ったおおかみはどんな気持ちだったのでしょうか。 | 意地悪を楽しんでいる気持ちを考えさせる。 | うさぎを抱き上げ後ろにそっと下ろした時、おおかみはどんな気持ちだったのでしょうか。 | 親切にした時の気持ちを考えさせる。 |

指導方法は **自我関与中心** **問題解決的** **体験的**

指導の工夫 役割演技、発問構成

| | |
|---------|-----------------|
| 本時の学習課題 | やさしくされるとどんなきもち？ |
|---------|-----------------|